

感染予防のためにも家庭、学校、放デイの連携を!



発達支援研究所便り「きらっと」発刊のご挨拶

所長 中村雅子

今年3月、スマートキッズ発達支援研究所が発足しました。2017年、国は、「障害のある子どもと家族を元気に」というメッセージのもと、家庭、福祉、教育の連携を推進する「トライアングル」プロジェクトを発足させました。これを実効性のあるものとするため、スマートキッズ発達支援研究所は、実践研究や調査研究を行い、社会に発信していきます。また、障害者の就労や社会活動への直接的な支援など、具体的な活動を行っていきます。

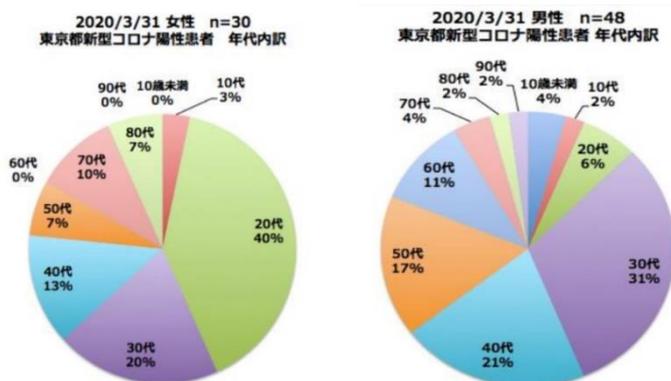
研究所員は、長い間、子供の健康増進や教育の質向上に携わってきた医師や学校関係者、研究者、心理士、主任児童員などの方々に構成されています。それぞれの専門性を生かして、研究所便り「きらっと」を発信してまいります。また、スマートキッズ発達支援研究所ホームページには、関係論文も自由に閲覧していただけるよう掲載します。保護者の皆様をはじめ、学校・行政、医療・福祉関係の皆様とのつながりを深め、障害者支援の輪が広がり、社会を変えていく糸口になることを願っています。

さて、去る2月28日、新型コロナウイルス感染対策として、3月初旬から学校が休校となりました。4月1日には、都立校の休校延期となりました。学校再開を願う一方で、感染リスクの不安もあると思います。本号では、研究所員の本田ドクターのメッセージと資料を皆様と情報を共有し、感染予防に努め、共にコロナウイルス対策に取り組んでいきましょう。

研究所員の本田ドクターからのメッセージ・・・あなたの行動が世界を救う「うつらない、うつさない!」

イギリスの免疫学医師によれば、日本はまだ爆発的ではないけれど、比較的ゆっくりと指数関数に移行している状態。ロンドンでは、オリンピック会場を転用し、四千の病床、五百の人工呼吸器、二つの遺体安置所を備えた野戦病院 NHS ナイチンゲールを近く開設。今の日本は、イギリスの3週間前と考えられる。一人一人が感染予防に努めることで、まだ間に合う。次のデータのように、若い人でも感染する。①人込みや狭い空間には行かない、②手洗いをしっかり、あればマスクを③顔や髪の毛、目や口を触らない、の3つを守ることが何より大切。

<研究所員 本田ドクター作成資料>



こうどう せかい すく
あなたの行動が世界を救う
 せかい すく
 世界を救うヒーロー・ヒロインになろう

たったこれだけ

目標「うつらない、うつさない」

1. ひとごみや、せまい空間には行かない
2. 手洗いをしっかり、あればマスクも
3. 顔やかみの毛、目や口をさわらない

うつらない、うつさない、うつさせない

医療機関、保健所、検疫、行政職員などから心からのお願い

自宅にとどまってください

私達は全力でみなさんに尽くします。みなさんも全力で外出を控えてください。

STOP
 感染拡大

若くても 新型コロナ にはかかる!

知らないうちに 大切な人にうつすかも... 悪化すると 死ぬほどつらい

そしてたまたまに本当に死ぬ

それでもあなたは、今日出かけますか...?